

理研会報

行
印教研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町498-1

二百号を記念して

会報二百号を
祝して



躍と相まって、今日の御発展を迎えたものと信じます。

板橋 義雄

また部員の皆さんも、夫々研究部での御活躍もさることながら、

大変長いことお世話になつた理科研究部を去り、い

教育界でも極重要な立場で御活躍なされ、すでに御退任なされた方もす。

それこそ十年一昔を過ぎてしまい

このたび理研会報も二百号を迎えること、会報そのものの充実発展はもとよりのこと、研究部の日頃の御活躍が伺われ、心から敬意を表しますと共に、感謝とお喜びを申し上げる次第です。

当時を振り返りますと、会報も忙しい中をいろいろと苦労なさつて、長いこと担当していただきました。また、部員の皆さんも、よくアイデアを出し合い、内容の充実につとめていただきました。

こうした努力が代々引き継がれますと共に、研究部の益々の御活動と、研究部にあった事がやらや会報への

新たな決意で

研究部長

五味 健

理研会報も、百名をこえる会員の共通の場として理研会報の果たす役割は非常に大きなものがあると思います。

今、理科教育は大きな転換期を至りました。理科教育は大きな転換期を

文字通り手書きの会報か

発展を心から御祈念申し上げ、お祝いのことばいたします。

「この会報は、実は私の部長時代

想い出等を語り合つたのです。

その中で板橋先生が、

「この会報は、実は私の部長時代に始めたもので、ここまで継続さ

れるとは考えていませんでした。

関係者の先生方の努力に感謝する

と共に私達の研究部というものは素晴らしい仲間の集まりだと思いま

す。」と最初に話されました。

会報は、長い間、現成田中学校

長、中村先生の手書き原紙による

印刷でした。当時を偲ぶと實に懐かしいものがあります。

百号から二百号の間に実に多く

の優秀な人材を研究部は育てました。私も在職四十年、終始研究部に育てられ、研究部の中で育ちましたが、二百号は、まさに理科教

した。退職してしみじみと研究部の有難さが身にしみております。

授業についての研究もさることながら、何か一つ専門的に突っ込

ります。

私は部員ではありませんでした

いています。同好会として発足し、科学も、地球を住みにくいものにする危険性をはらんでいます。このような時、理科を通して何を子供達に指導したらよい

のか。自然に感動し、自然に親しみ、自然を愛する心を培う理科教育でありたいと願うのは、

科教育でありたいと願うのは、私ひとりでしょうか。

最後になりましたが、発行を直接担当されている方々に心から

迎えています。低学年の理科がな

らワープロの時代に入ったわけですが、その底を流れている精神は一貫して変わることなく続

一方、日進月歩の勢いで発展す

が、昔の謄写印刷の時代から拝見

充実していく、理研会報の研究

の方向や活動内容がよくわかりま

した。ましてや、理研会報の果たして、随分参考にさせていただき

きました。役割は、とても大きかったこ

とに對しては、理研会報の果たして

ました。また、理研会報がみんなに愛

され、頼りにされて、益々充実し

きました。創刊時から期待して、お祝いのことばに代え

一号、一号心をこめて発刊して来

た。今はそんな心境かもしれない

が、二百号は、まさに理科教

した。退職してしみじみと研究部が常に発展、充実して来た歴史であり、創刊以来受け継ぎ、引

きいで来た部員の方々の御努力を

101号	53	9	22	地方理科センター
102号	53	11	13	研修 (岩立)
103号	53	12	1	理科作品展 (折目)
104号	53	12	20	低学年理科アイディア集その1 (折目)
105号	54	2	10	年頭の挨拶 (宮鍋)
106号	54	4	28	実践記録 (板橋)
107号	54	5	31	ご挨拶 (穴澤)
108号	54	7	15	実践記録 (佐藤・土居)
109号	54	9	29	低学年理科アイディア集その2 (折目)
110号	54	10	5	実践記録 (倉次・小川)
111号	54	11	14	理科作品展
112号	55	1	31	新指導要領全面実施
113号	55	3	31	理科教
114号	55	9	22	地元理科セントラル
115号	55	10	27	新指導要領全面実施
116号	55	11	29	新指導要領全面実施
117号	55	12	29	新指導要領全面実施
118号	56	2	21	教研集会に向けて
119号	56	3	31	理科作品展
120号	56	9	20	理研会報発表大会
121号	56	10	8	習志野大会から
122号	56	11	25	（磯辺・鈴木）
郡展・県展から				（大森小）
				ソニー理科教育振興
				資金に応募して
				（都築）
				実践記録
				教研集会へ向けて
				研修行事に参加して
				（松丸・石橋）

会報のあゆみ

101号

199号

「原稿はまだか。」

武藤 喜正



理科教育における「基礎・基本とは。」
「子供の科学的思考力を伸ばす理科指導は。」などと盛んに論議された当時、いかにしたら多くの先生方に「理科の好きな先生」になつてもらえるだろうか、といふことから理研会報の第一号が発行されたのは、昭和四十年（板橋義夫研究部長）だった。

依頼したら九百五拾円也：に、年間最低十号、管内全教職員に配付という当初の夢はあえなく挫折。その時、「俺が原稿を切るからお前は原稿を集めろ。」と言つてくれたのが中村先生（現成田中学校長）。以来、七十号位まで編集に携わらせてもらつたろうか。

それを支えてくれたのは、中村先生の「原稿はまだか。年十回は

行されたのは、昭和四十年（板橋義夫研究部長）だった。

出そうや。」の毎度の言葉と、快く原稿を引き受けてくれた先輩諸

千葉県知事賞
《雑草の発芽と成長》 63
成田小六年 井上 隆博

氏のおかげだった。

それにも、編集者の特権？

千葉県教育長賞

砂・ジャリの方が育ちやす

いが》 62

（穴澤鉢治先生記）等が「栽培の手引き」としてまとめられた事など、今でも記憶に残ることである。

（元研究部長）

《えさを取るさる》 53

酒々井小一年 久木 真司

《ぱたぱた鳥》 61

富里南小二年 西村 真吾

（ばたぱた鳥） 61

成田市立成田小学校 63

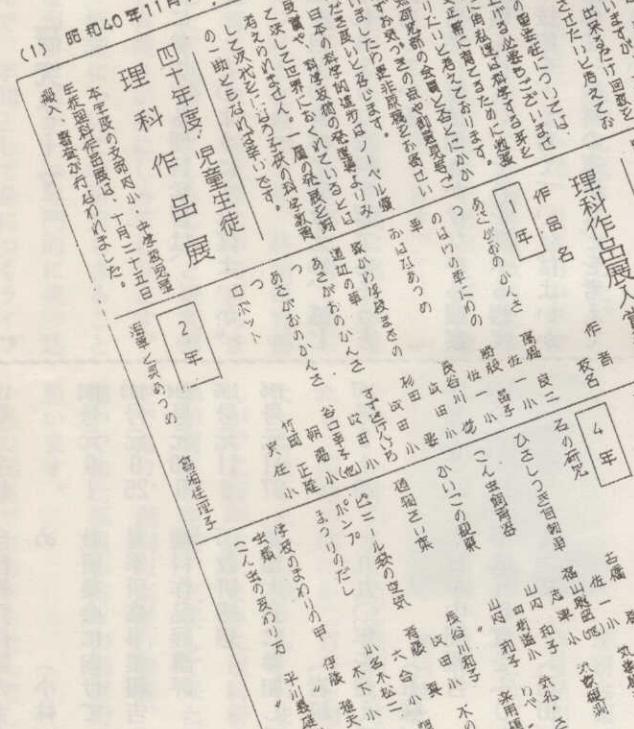
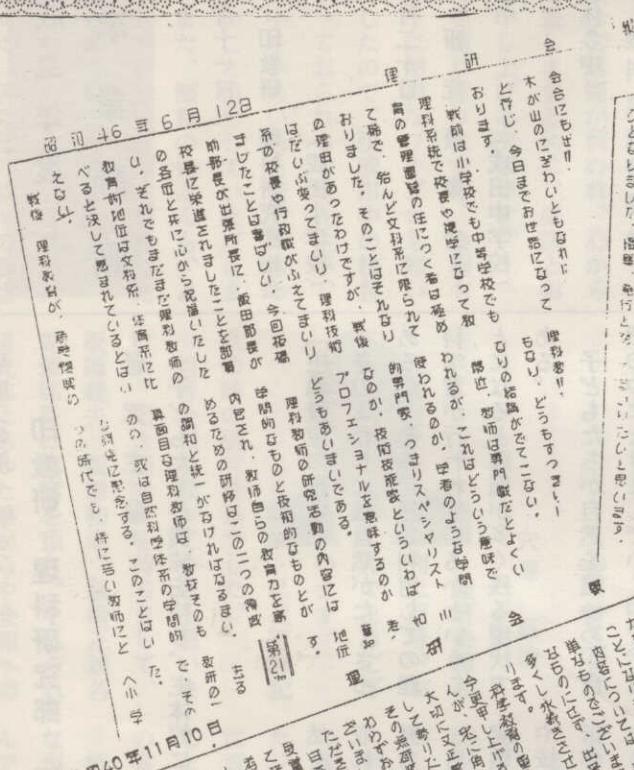
（ぱたぱた鳥） 61

理研会報二百号発刊を記念して、一号、五十号の一部を載せてみました。



理研会報
五百号

理研会報の歴史



研究部に望む
正

第50号

1946年6月12日

理研会報

第46号

1946年6月12日

